

東北海区沿岸水温予報(2001年)

海域	経過 (1~6月)	現況(6月下旬~ 7月上旬)	見通し (8~10月)	見通しの背景	特異現象 (漁海況)
三陸北部 (青森県太平洋沿岸; 青森水試発表)	津軽暖流域の水温は概ねやや低め~ 平年並。津軽暖流の東方への張り出しは やや強め~平年並。	沿岸定地水温は概ね平年並~やや 高め。この期間、定線観測なし。	津軽暖流域の水温は、表面はやや高 め、それ以深は平年並。津軽暖流の 東方への張り出しは平年並。	4~6月対馬暖流はかなり強 めから平年並に戻る。7月は やや弱め基調。7月の対馬暖 流域水温は、表面はやや高 いものの、それ以深は平年 並。日水研発表の日本海海 況(7~9月)予報では、表面 水温はやや高め、50m深水 温は平年並の予報。	6月の定線観測で親潮域の 水深50~200mに水温0 度の冷水が観測。
三陸中部 (岩手県沿岸; 岩手水試発表)	1月中旬頃より沿岸親潮水が本県沿岸部に 南下し、2月には50以下の冷水が県中南 部に接岸した。3月に入り、同冷水は県北 部から金華山付近まで接岸の幅を広めた。 1~3月までは、県全域で低め~極めて低 めで推移した。4月以降は親潮の張り出し は弱まったものの、局所的に冷水が点在す る形となり、平年並~やや低めとなった。6 月になると親潮の南下勢力が再び強勢に 転じ、その先端はトドヶ崎沖合10~30海里 に達した。	親潮第一分枝が本県北部沖合10 ~70海里付近から県南部沖合20 ~40海里にかけて細く南に張り出 し、さらに南下している。表面水温 では、本県沿岸10海里以内にお いて県全域で平年並。10~70海 里において、県北部、南部で平年 並~やや低め、県中部でやや高 め。100m深では、本県沿岸10海 里以内において県中部で低めの ほかは平年並。10~70海里にお いて県中南部沖合50海里付近で は、やや高めのほかはやや低め ~低め。	100海里以内及び 10~70海里ともに 表面では平年並~ やや高め基調、 100m深では平年 並~やや低め基 調に推移する。	津軽暖流の南下勢力及び親 潮第一分枝が岸寄りに推移し ていること。仙台管区気象台 発表の3ヶ月予報によると、7 ~9月の気温は平年よりも高 めに推移すること。親潮第一 分枝に連なる冷水が50m深 から底層まで鉛直的に幅広く 分布していることから判断し た。	県内主要6港における水揚 げ状況(6月下旬現在)ク ロマグロが年累計で44トン の水揚げがみられ、前年の 約4倍(定置網)。サンマが 年累計で4.7トンの水揚げ がみられ、前年の約6倍(定 置網)。
三陸南部 (宮城県沿岸; 宮城水試発表)	1~3月は親潮第一分枝の南下により、表 面・100m深とも平年より2~8低め。4 月は沖合からの暖水波及により、沖合海 域で表面・100m深とも平年より2~4高 め、沿岸海域では平年並~2低め。5~6 月は再び親潮第一分枝の影響を受け、北 中部海域を中心に、表面・100m深とも概ね 2~4低め。	142°10'~40'Eの海域が帯状 に親潮系冷水で覆われた。この付 近では、平年に比べて表面で2~ 4、100m深で2~6低め。142° E以東の北中部沖合海域には 黒潮系暖水が沖合から波及し、 表面で約2、100m深で2~5 高め。仙台湾は概ね平年並。	表面は、やや低め ~やや高めで推 移。100m深は、 沖合海域で平年 よりやや高め、他 の海域では低め~ 平年並で推移。	親潮第一分枝に連なる冷水 が三陸沖に依然存在し、北 部から冷水がさらに供給さ れている模様(6~7月沿岸定 線ADCPより)。表面は日射等 で昇温すると考えられるが、 100m深ではこの冷水が消滅 するとは考えにくい。	7月の定線調査で、川ノ 川に刈林入網。6月の県内 サバ類が定置網を中心に 昨年比約35倍の水揚げ。加 けつのも定置網を中心に昨 年比約2倍の水揚げ。 142°10'~40'Eの海域 の表面塩分は低く、33PSU 以下
常磐北部 (福島県沿岸; 福島水試発表)	1月:表層、下層とも単調に推移。2~3月 東経142°線に沿って冷水が南下し、表層 で0~2台と、極めて低め。4月:低め基 調が持続し、前月より沿岸寄りに冷水が南 下。黒潮系水の北上弱く、南部で低め~極 めて低め。5月:黒潮系水の勢力が強まり、 高め~極めて高め。6月:県北部海域に親 潮系水の差し込みがみられるものの、黒潮 強勢は持続し、県中~南部で高め~極め て高め。	黒潮系水の北上は沖寄りとなり、 親潮系水が南下し、沿岸部に冷水 域が形成された。県南部海域では やや高め~極めて高め、冷水域 のみみられた県中部ではごく沿岸部 でやや低め~低め、県北部沖合 で低め。	県南部海域は沖合 を中心に高め、県 中~北部海域で平 年並み~やや低 め。	黒潮系水の勢力は強いもの の中心は沖寄りとなり、沿岸 には親潮系水の波及が見 込まれる。	2~4月、平年値を大きく下 回る異常冷水が南下。 4月下旬以降、オキアミ漁 場の形成がみられず、低 調。 5月中旬~下旬、曳釣によ るカツオ漁場がいわき海 域に形成。
常磐南部 (鹿島灘 茨城県沿岸; 茨城水試発表)	1月:沿岸域に暖水舌が、常磐南部の沖合 域に黒潮からの暖水が波及していた。常磐 南部沖(141°15'E付近)に親潮系冷水の 差込がみられた。2月:沿岸域に暖水舌が 形成されていた。親潮系冷水(1台)が常 磐南部沖まで南下した。3月:欠測。人工 衛星画像から親潮系冷水は県中央部まで 南下していた。鹿島灘に暖水舌が形成され ていた。4月:黒潮は沖合域に存在し、沿岸 域に暖水が波及していた。黒潮の張り出し により親潮系冷水は塩屋崎沖まで後退し た。5月:黒潮は本県沖を北上し、黒潮系暖 水に広く覆われていた。6月:黒潮は本県 東方沖を北上し、黒潮から派生した暖水に 広く覆われていた。	7月:黒潮は本県沖を北上し、黒 潮から派生した暖水が沿岸域に 波及している。	水温は「高め~極 めて高め」で推移 する。	4月中旬以降黒潮の勢力が 強まり、水温は「高め~極め て高め」で経過している。暖 水傾向は1999年並みに強 く、今後も継続すると考えら れる。黒潮流路は常磐~鹿島 灘沖で東西に変動するが、北 限位置がやや北偏しているこ とから今後も高めの基 調で推移すると考えられる。	最低水温(1台)を観測した (2月)。4月中旬に黒潮の勢 力が急に強まり、親潮系冷 水傾向は1999年並みに強 く、今後も継続すると考えら れた。5月中旬に黒潮が接岸 し、最高水温を観測した。 ヤリイカが豊漁であった(2 月底曳き網)。カタクチワ シが豊漁であった(4~5月 まき網)。マシラス・サバ幼 魚・コマセの混じりが多かつ た(5~6月船曳網)。タイが 不漁であった(5~6月流し 網)。

各階級の水温年偏差の範囲

階級区分(出現率)	三陸北部	三陸中部		三陸南部	常磐北部	常磐南部~鹿島灘
		距岸10海里内	距岸10~70海里			
極めて高い(2.5%)	+2.4 ~	+4.0 ~	+6.0 ~	+2.4 ~	+4.0 ~	+4.0 ~
高い(7.5%)	+1.6~+2.3	+2.5~+3.9	4.0~+5.9	+1.6~+2.3	+2.5~+3.9	+2.5~+3.9
やや高い(20%)	+0.7~+1.5	+1.0~+2.4	1.5~+3.9	+0.7~+1.5	+1.0~+2.4	+1.0~+2.4
平年並み(40%)	+0.6~-0.6	+0.9~-0.9	1.4~-1.4	+0.6~-0.6	+0.9~-0.9	+0.9~-0.9
やや低い(20%)	-0.7~-1.5	-1.0~-2.4	1.5~-3.9	-0.7~-1.5	-1.0~-2.4	-1.0~-2.4
低い(7.5%)	-1.6~-2.3	-2.5~-3.9	4.0~-5.9	-1.6~-2.3	-2.5~-3.9	-2.5~-3.9
極めて低い(2.5%)	-2.4 ~	-4.0 ~	-6.0 ~	-2.4 ~	-4.0 ~	-4.0 ~